



八王子駅ビルの懸垂幕

使い捨ての多いレジ袋。市では、身近なところから使い捨ての習慣を見直すことにより、不要なレジ袋を削減し、ごみ減量や地球温暖化の原因といわれる「二酸化炭素の削減を図るため、マイバッグの利用を呼びかけています。」

7月に行った「マイバッグに関する意識調査」では、7割の方がレジ袋をなるべくもらわないように意識していることがわかりました。

また、10月の「マイバッグ利用促進」月間には、市民の皆さん、事業者と協働でレジ袋削減

の取り組みを実施。その一環として市内10店舗でマイバッグ持参率調査を行ったところ、持参率は平均33.7%でした。このように、マイバッグを持参しようという「意識」と「行動」には差があり、この差を縮めて行動に結びつけることが今後の課題となっております。

そこで、市は事業者と市民の皆さんと一緒にさらなるレジ袋削減のための方法を検討し、レジ袋有料化の実験を行うこととしました。今号は、その取り組みを紹介します。

さらなるレジ袋削減をめざして

もくじ(主な内容)

- P2... マイバッグ持参運動の取り組み、スーパーアルプス宇津木台店でレジ袋有料化実証実験
- P3... コープとうきょうの取り組みなど
- P4... 指定収集袋収入の使いみちなど
- P5... 資源物回収量と売払収入など
- P6... 「八王子市オリジナルマイバッグ」のデザインが決定 など
- P7... 環境教育DVDを作成しました など
- P8... 来年のごみ・資源物収集カレンダーを配布 など



店頭での意識調査アンケート



商店会街路灯のフラッグ

これまでのマイバッグ持参運動の取り組み

市は、平成18年度から、レジ袋削減を図るため、マイバッグ持参運動を推進してきました。マイバッグモニターの実施やイベントで、利用を呼びかけながらの配布など、市民の皆さんにマイバッグを使うていただくための取り組みを行っています。

また19年11月からは、清掃事

業所職員による戸別訪問を行い、ごみ減量のお願いとマイバッグの配布による普及を進めています。この間、市民・事業者の代表で組織された「ごみゼロ社会推進協議会」でも先進事例などを参考にしてレジ袋削減のための手法を協議し、レジ袋有料化の検討も必要との意見をまとめ、市

へ提言しています。そこで市は、10月のマイバッグ利用促進「月間」にあたり、レジ袋削減のための取り組みの一つとして、レジ袋有料化の実施をスーパーマーケットに要請しました。今回この要請に応じてスーパーアルプスがレジ袋有料化の取り組みを実施することになりました。

スーパーアルプス宇津木台店でレジ袋有料化実証実験

スーパーアルプスは、八王子市を中心に25店舗を展開するスーパーマーケットです。

これまでも、市内の店舗(12店舗)では八王子市が認定している「エコショップ」として様々な環境に配慮した取り組みを行っています。

＜レジ袋削減の取り組み＞

平成18年から、お客様の声を活かした保温機能付きのオリジナルマイバッグを販売してマイバッグの普及を促進しています。

また、10月からは特製のエコ・バスケットを販売。チラシや店内で使用方法を詳しく紹介し、レジ袋がなくてもお買い物しやすい環境づくりに努めています。



エコ・バスケットを使えば移し替えの手間もありません

市の要請に応じて平成21年1月下旬から実施

スーパーアルプスのレジ袋辞退率は平成19年度が約25%、20年度(上半期)は30%を超えています。(市内全店の平均)

このように消費者の意識も次第に上がってきており、この意識をさらにレジ袋削減の行動に結びつけようと、スーパーアルプスでは市の要請に応え

てレジ袋有料化の実証実験を平成21年1月下旬から宇津木台店で行い、レジ袋辞退率75~90%をめざしていきます。

レジ袋削減の取り組みの効果をあげるには、市民の皆さんのご理解が必要です。そこで市は、アルプス宇津木台店のレジ袋有料化の取り組みを

地域の皆さんと一緒に積極的に支援していきます。

レジ袋を削減することは、身近にできる環境にやさしい生活実践への第一歩。皆さんのご理解とご協力をお願いします。

(実施期日などは、市の広報紙やホームページでお知らせします。)

平成20年4月から本格導入 ~ コープとうきょう高倉店 ~

コープとうきょうではごみの削減と資源の有効活用を実現するため、16年前からセルフ販売(代金箱)方式によるレジ袋の有料化を全店で実施しています(平成19年度レジ袋削減率79%)。コープとうきょう高倉店ではさらなるレジ袋の削減をめざし、平成19年11月からレジ袋の販売を“セルフ販売方式”から“レジ精算方式”に変更し、他店に先がけ実験的に導入してきました。その結果、当初目標のレジ袋削減率90%を達成し、平成20年4月から本格導入しました。

なお、1枚5円で販売したレジ袋代金の収入は、太陽光・風力・バイオマス発電などの自然エネルギーへの転換やバイオディーゼル燃料の活用など、中長期的な視点に立つ実験や研究的な環境対策、森林保護の援助などへ積極的に活用しています。



レジでの販売方式によりレジ袋有料化を実施中

市では引き続き広報やホームページを通じて、市民の皆さんに情報提供を行うなど、こうした取り組みを支援していきます。

レジ袋有料化への取り組み ~ 市民・事業者・市の連携 ~

使い捨ての象徴とされるレジ袋。市では使い捨ての生活習慣を見直すことで、ごみ減量意識の向上と環境負荷の低減を図ることをめざします。

このため、まず身近にできるマイバッグ持参運動の推進、さらにレジ袋削減のためレジ袋の有料化は有効な手段の1つであると考え、事業者には有料化を要請していきます。この取り組みは事業者・市民の皆さんの協力が不可欠です。そこで「ごみゼロ社会推進協議会」と協議し、有料化実験を行ううえで次のような取り組みを行っていきます。

マイバッグ利用の促進やレジ袋有料化実験などを踏まえて、マイバッグ持参の推進を図り持参率80%をめざしていきます。

市の要請に応じてレジ袋有料化の取り組みを行う事業者には、積極的な支援と協力を行います。また市民の皆さんにも、この取り組みへの協力をお願いしていきます。

支援・協力として、広報活動などを中心に市と市民が協働で行っていきます。

市では今後実証実験などを通じ、市民・事業者・市の連携を図りながらこの取り組みをすすめていきます。

レジ袋削減へ向けて 「ごみゼロ社会推進協議会」の意見

市民や事業者とともにごみ減量・再利用など市の施策を具体化し推進するため平成18年12月に「ごみゼロ社会推進協議会」を設置しました。本協議会は町会・自治会、高齢者・消費者団体、学生などの市民の代表及び事業者の代表15人で構成されています。

これまで、マイバッグ持参運動の展開などについて協議・検討を重ね市に提言を行っています。11月5日に開催された協議会ではレジ袋削減のための方法の一つとして「レジ袋有料化も有効な方法であり、市民も協力して推進していく」との意見をまとめました。

地球温暖化対策やごみ減量を考えると発生・排出抑制が第一で、自分たちでできる身近なところから始めることが大切。そのためには市民としても協力を惜まず、市もまた率先して迅速に行う必要があります。



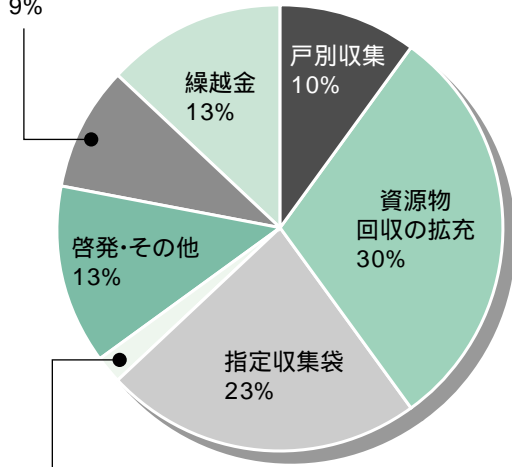
ごみゼロ社会推進協議会
会長 細井衛さんにお話
をお伺いしました

家庭用指定収集袋収入の使いみち

平成19年度（19年4月1日～20年3月31日）の指定収集袋の収入は11億7千477万3千140円でした。この収入は、有料化に伴い実施した戸別収集資源物回収の拡充、指定収集袋制度などの必要経費に充てています。

1,174,773,140円の充当先事業内訳

みどりの保全基金積立
9%



不法投棄対策
2%

①戸別収集 121,517,154円

- 可燃ごみ収集 27,529,691円
- 不燃ごみ収集 93,987,463円

②資源物回収の拡充 353,981,227円

- 古着・古布 28,482,323円
- ペットボトル 146,564,488円
- プラスチック 143,224,624円
- 空き缶 29,077,978円
- 空きびん 6,631,814円

③指定収集袋 272,903,632円

- 製造費 166,450,627円
- 運搬等管理費 106,453,005円

⑥みどりの保全基金積立

110,000,000円

本市の貴重なみどりを市民共有の財産として保全し、緑化の推進を図るために、みどりの保全基金に積み立てました。

④不法投棄対策 17,784,523円

- 監視カメラ設置(10台) 12,267,719円
- 警告シール等作成費 5,516,804円

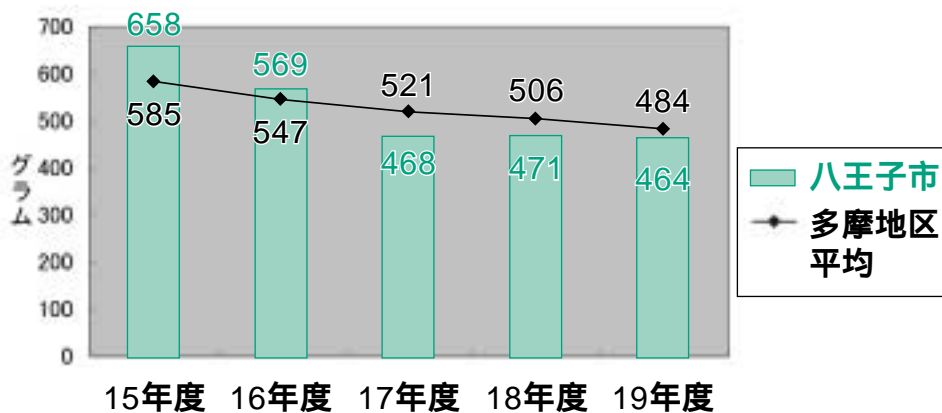
⑤啓発・その他 150,398,688円

- 廃食用油資源化事業等経費 9,996,812円
- 広報・カレンダー作成・配布等経費 69,197,538円
- 資源集団回収・生ごみ処理機補助 25,415,222円
- 清掃工場等経費 45,789,116円

⑦緑越金

148,187,916円

一人・一日あたりのごみ量の推移(多摩地区平均との比較)



収集した可燃ごみと不燃ごみの合計(資源物や有害ごみは除く)

(財)京都市町村自治調査会「多摩地域ごみ実態調査」より

ごみ量の推移 多摩地区平均との比較

平成19年度に家庭から収集したごみ量は可燃ごみ7万3千783トン、不燃ごみ1万9千904トンでした。これを人口で割り一人1日あたり約464グラムです。これを多摩地区平均と比較したものが左のグラフです。17年度以降、多摩地区平均よりも少ないことが分かります。

資源物回収量と 売払収入

平成19年度の資源物回収量がまとまりました。16年度からの回収量の推移をみると17年度をピークに減少傾向にあります。ごみと資源を分別し、ごみ量を減らすことは大切なことです。皆さまのご協力をお願いします。なお、資源物の売払いは資源物回収費用に充てています。

	16年度	17年度	18年度	19年度	
	重量(kg)	重量(kg)	重量(kg)	重量(kg)	売払収入(円)
新聞	3,064,030	3,190,600	2,759,100	2,356,990	古紙計 116,226,117
ダンボール	2,912,020	3,651,940	3,674,210	3,543,000	
雑誌・雑紙	8,890,680	12,369,100	12,630,480	12,338,800	
紙パック	111,340	215,810	201,210	183,410	
空きびん	4,129,890	4,405,370	4,386,590	4,296,680	1,075,551
空き缶	1,523,140	1,740,160	1,662,455	1,595,110	60,483,175
古着・古布	1,687,984	2,321,136	2,268,750	1,941,270	12,961,828
プラスチック	433,450	866,450	947,810	1,001,230	0
ペットボトル	846,860	1,484,200	1,554,490	1,622,436	29,271,607
はがき類	3,360	3,730	4,250	4,070	0
計	23,602,754	30,248,496	30,089,345	28,882,996	220,018,278

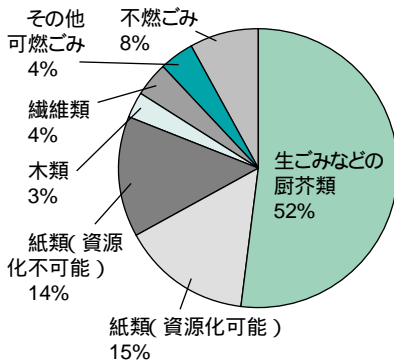
家庭ごみの中身を見てみると 20年度組成分析より

家庭から出されるごみの中身を調べた結果はグラフのとおりです。

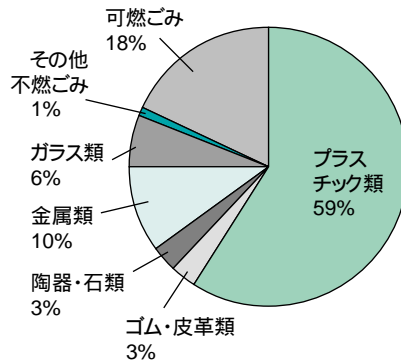
可燃ごみでは生ごみと紙類が、不燃ごみではプラスチック類が大半を占めています。生ごみは水切りをするだけでも減量できます。また、紙類やプラスチック類の中には資源化できるものも混入しています。ごみと資源の分別をお願いします。

家庭系可燃ごみ・不燃ごみの内容(組成分析調査結果) (平成20年7月実施)

可燃ごみの内容



不燃ごみの内容



不法投棄・ポイ捨て しない、させない、許さない

本市の大きな財産である緑豊かな自然。ここでの不法投棄は絶対許されない行為です。また住宅地や市街地でのポイ捨ても目立ちます。なかには資源物集積所や道路に面した集合住宅の集積所までにもポイ捨てをする人もいて、集積所を管理する方や利用者が大変迷惑しています。ちょっとしたポイ捨てが「ごみがごみを呼び」大きな不法投棄場所となります。

市では、「不法投棄をしない、させない、許さないまち」をめざして次のような取り組みを行っています。監視カメラの設置、職員による夜間・深夜のパトロール、警告看板や小学生が描いたポスターの設置、さらには、リサイクル推進員の方を始め市民の皆さんと連携を図り、監視の目を光らせています。

この結果、不法投棄量は減少傾向にあります。件数は年間3千件を超えていて、ポイ捨てを含めるとこれ以上の数字になります。不法投棄やポイ捨ては単なる「ごみ問題」ではなく、「一人ひとりのマナーやモラルの問題」でもあります。次代を担う子どもたちのためにも大人が良い手本を示し、責任ある行動で住み良いきれいなまち八王子をつくりましょう。

小学生が描いたポスターも不法投棄防止に役



「八王子市オリジナルマイバッグ」 デザインが決定

最優秀賞は市内在学 長谷川 直己さんの作品に

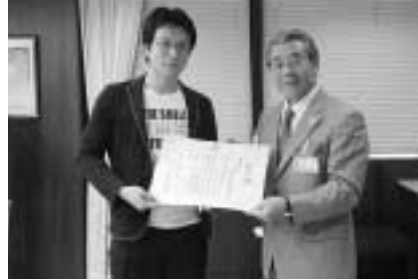
市はマイバッグ(買い物袋)の利用を市民の皆さんに呼びかけるため、6月に「八王子市オリジナルマイバッグ」のデザイン募集を行いました。これには59点の応募があり、町会や学生など市民の代表と八王子織物工業組合からなる「オリジナルマイバッグ検討委員会」で選考を行った結果、7点の優秀作品が選ばれました。その後、9月末に市内各市民センターなどで市民投票を行い、最優秀作品がデジタルハリウッド大学在学の長谷川直己さんの作品に決定しました。今後、長谷川さんの作品をもとに八王子織物の伝統技術を活かした生地で作られたオリジナルマイバッグを製作し、マイバッグ利用促進に向け活用していきます。



決定したオリジナルマイバッグ

受賞した長谷川さんのコメント

「大学生はよくコンビニを使いますが、その際レジ袋をもらう機会が多いので、学生が使いやすいものを意識してデザインしました。学生ももっと環境について考えていかなければならないと思います。」



▶最優秀賞受賞の長谷川さん(写真左)と黒須市長

生ごみの減量と安全・安心な食の循環をめざして、学校給食でモデル事業開始

10月から、みなみ野君田小学校と地元農家が連携した「食の循環モデル事業」がスタートしました。これは、学校給食から出る野菜くずや食べ残しから良質な堆肥を作り、それを利用した農家で収穫される食材を給食で用いることにより、生ごみの減量・資源化の新たな手法を確立していくものです。

給食で調理する際に出る野菜くずや食べ残しは1日約50kg。これを今回設置した生ごみ処理機に投入すると、堆肥作りに使用する生成物が約8kgできます。これは、地元農家中西弘さん(小比企町)のご協力のもと堆肥となつて野菜作りに使用されます。

このモデル事業により生ごみの減量を進めながら、安全・安心な食の循環システムを構築するとともに、子どもたちの食の教育にも役立てていきます。



みなみ野君田小学校に設置した生ごみ処理機



◀液化した生成物が燃焼する様子

市ではさらなるごみの減量と新たな資源化手法の開発をめざして、従来可燃ごみとして処理をしていた剪定枝(木の枝や葉など)から液体燃料を合成する研究を東京工科大学と協働で行っています。

昨年、試作したガスの液化装置を用いて、剪定枝などを熱分解すると発生する二酸化炭素と水素の混合ガスの液化に成功し、現在、より効率的な合成ができるよう研究を続けています。この研究により作られる液体燃料は今後、自動車燃料や発電燃料などに有効利用していく予定です。実用化されるまでには多くの課題もありますが、環境にやさしいエネルギーをつくるための大いに期待される研究です。

木くずから液体燃料へ 市内大学との共同研究を進めています

環境教育DVDを

作成しました

市では、市民・事業者の皆さんに、ごみに関する理解を深め、ごみの発生抑制を進めていただくことと環境教育DVDを作成しました。

このDVDでは、「めざせ！循環型都市八王子」をテーマに、八王子のごみの現状や処理方法、環境に配慮した市民・事業者の取り組みなどを映像で分かりやすく紹介しています。

市では、このDVDを小・中学校での環境教育や出前講座、エコひろばで開催しているリサイクル啓発講座など、地域での環境学習に活用していきます。

ごみと資源物の分別方法も映像で分かりやすく解説しています。図書館やエコひろばで貸し出しを行っていますので、ぜひご覧ください。問い合わせ：環境政策課 620・7384



DVDをぜひご活用ください

事業系ごみ減量に向けた新たな取り組み

～紙資源無料持ち込み場所の設置～

事業者が出す可燃ごみは市の清掃工場で処理していますが、家庭ごみも含めた可燃ごみ処理量のうち約4割を占めています。このため、市では事業系ごみの減量を施策の大きな柱として位置付けています。今年度行った調査では、事業系ごみの中に資源化できる紙ごみが多く占めていたことから、事業系紙ごみの資源化に向け、新たな取り組みを推進しています。

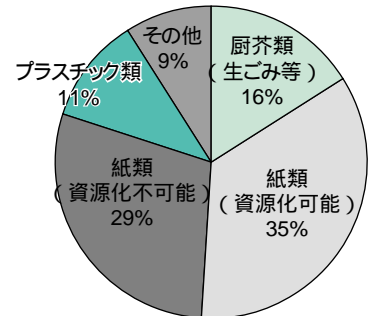
事業系ごみに関するアンケート

今年6月に市内全事業者を対象にアンケート調査を実施しました。その結果、環境意識は全体的に高い一方で、雑紙の資源化を行っていない事業者も2割いました。その主な理由として、「資源物保管場所の確保」が難しい現状にあることが明らかになりました。

事業系ごみの内容調査(組成分析)
事業者が出したごみの中身を調べた結果では、「資源化可能な紙ごみ」の割合がこれまでの調査と同様に3割を超えています(右図参照)。

この紙ごみを資源化することで、ごみを大幅に減量することができます。

事業系可燃ごみの内容
(平成20年7月実施)



紙資源持ち込み場所の設置

市では主に中小事業者を対象として、紙ごみを無料で持ち込むことができる「紙資源持ち込み場所」を設置することにしました。清掃施設における紙資源持ち込み場所は右表のとおりです。また、他の施設にも順次設置していきますので、ぜひご利用ください。



紙資源持ち込み場所
(館清掃工場)

清掃施設における紙資源持ち込み場所の概要

清掃施設名	住所	電話
館清掃工場	館町2700番地	665・2570
戸吹清掃工場	戸吹町1916番地	692・5389
南大沢清掃事業所	南大沢三丁目20番	674・0551

上記施設は市民の方もご利用できます。

持ち込みできる品目

ダンボール、書類(雑誌・雑紙)、シュレッダー紙、新聞、紙パック

持ち込み量は軽トラック1台程度まで

持ち込み時間

午前8時30分～午後4時

月曜日～金曜日(年末年始を除く)

清掃工場では、第4日曜日もちり込み可

持ち込み手数料 無料

お知らせ

市民の声より

粗大ごみポイント・シール制について

【要望】粗大ごみには1ポイントや3ポイントの品物があるのに、粗大ごみ処理券は5ポイント券500円(しかもなく、端数のポイントが無駄になる場合があるので1ポイント券も作って欲しい)。

【回答】昨年10月に粗大ごみ収集方法を従量制からポイント・シール制に変更し、収集までの期間短縮と収集時の立会いが不要になるなど、市民負担の軽減を図ることができました。また、発生抑制の観点から5ポイント券のみとしましたが、端数に対応する券も必要との要望も多く寄せられていることから、1ポイント券を作ること検討していきます。

犬や猫などのペットが死亡した場合

【質問】家族同様にかわいがっていた犬が先日亡くなりました。市ではペットの遺体の引き取りを行っているのでしょうか。

【回答】犬や猫などの遺体は市の施設でも引き取りを行っています。引き取りを依頼する場合は1体2千500円。ご自身で持ち込む場合は1体千円です。動物専用の焼却炉で数体合同で焼却します。お骨は拾えません。

【引き取り申し込み先】浅川(南浅川)の北側にお住まいの方は戸吹清掃事業所 691・

2891(へ)。浅川(南浅川)の南側及び多摩二コタウン地域にお住まいの方は館清掃事業所(665・2531)へ

【お持ち込み】お住まいの地区を問わず直接戸吹清掃工場 692・5389(か館清掃工場) 665・2570へ

来年のごみ・資源物収集カレンダーは12月5日～15日の間に

配布

可燃ごみ・不燃ごみや資源物の収集日や分別方法を表示した「家庭用ごみ・資源物収集カレンダー」を12月5日から15日にかけて全世帯に戸別配布します。

【来年のカレンダーは青色です】

なお12月16日を過ぎても自宅に届かなかつたり、自宅の町名と異なる区域のカレンダーが届いた場合は、お手数ですがごみ減量対策課 620・7256、FAX626・4506までご連絡ください。

▲平成21年版収集カレンダー



消費アイデア・ごみを減らす

アイデア募集

消費者センターでは、今年度も消費アイデア集の発行を企画しています。そこで、市民の皆さんから日常生活での知恵やアイデアを募集いたします。

【募集アイデア】

家庭で工夫・実践しているごみを減らす、ごみにしない、環境への配慮など消費生活の知恵の例… 使い捨ての商品は買わない。使わない。 食器や鍋は洗う前にほろ布やへらで汚れや油をぬぐう。

【応募要領】

ハガキまたは封書で、アイデアと簡単なコメント(効用や効果、データなど)と住所・氏名・電話番号(連絡先)を書いて1月23日(必着)までに郵送

応募していただいた結果、今までに応募いただいたものを含めて、抜粋したものを作成し、来年2月21日(土)・22日(日)に八王子スクエアビルで開催する「くらしの見直し展」で来場された方にさしあげる予定です。

【応募・問い合わせ先】

〒192・0053 八幡町7 10 安藤物産第一ビル4階 八王子市消費者センター(625・2155)

指定収集袋・粗大ごみ処理券取扱店一覧(町名は50音順)

新規取り扱い店(指定収集袋・粗大ごみ処理券とも)		西寺方町41 1	森田屋酒店
大塚359	セブンイレブン 帝京大学八王子キャンパス店	東中野505 1	サークルK 八王子野猿東中野店
大横町12 10	ファミリーマート 八王子北大通り店	松が谷11 6	スーパーユネスコ 松が谷店
桐田町530 5	マツモトキヨシ めじろ台店	明神町1 24 5	サンクス 八王子北野公園通店
桐田町553 15	ファミリーマート 八王子高専通り店	粗大ごみ処理券も取り扱いを始めました	
寺田町432 101 107	スーパーナカヤ 八王子寺田店	横山町5 9	大島屋